浪華悲歌（1936）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 71分
初公開日 1936/05/28
公開情報 松竹キネマ

【解説】
　戦前期における溝口健二の傑作のひとつ。溝口の原作を依田義賢が脚色した。台詞は藤原忠が担当。溝口はもともと山田五十鈴の起用を前提として原作を書いたとされ、山田も監督の厳しい演出に耐え「自立する女性」を演じきった。
　電話交換手として働くアヤ子は、会社の金を横領した父親のため、勤め先である薬種問屋の社長の愛人となり、借金の肩代わりをしてもらった。しかしそのことを社長夫人に知られてしまい、店を追い出される。アヤ子はさらに兄の学費を稼ぐため、株屋を美人局（つつもたせ）で騙し金を奪おうとして、警察に逮捕されてしまう。恋人に逃げられ、家に戻る彼女を待っていたのは…。

【クレジット】

監督	溝口健二	
原作	溝口健二	
脚色	依田義賢	
台詞	藤原忠	
撮影	三木稔	
衣裳	小笹庄治郎	
編集	板根田鶴子	
音楽	音楽部	
人形指導	桐竹紋十郎	
助監督	高木孝一	
	鴻嶺利光	
	坂本明	
	坂田信吉	
出演	山田五十鈴	村井アヤ子
	浅香新八郎	アヤ子の兄・村井弘
	進藤英太郎	株屋・藤野喜蔵
	田村邦男	医師・横尾雄
	原健作	麻居店員・西村進
	橘光造	会社員・松下文三郎
	志村喬	刑事　峰岸五郎

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.